

中川・綾瀬川ブロック公述書

開催場所：千住区民ホール ホール

開催日時：平成19年2月27日

以下の部分について公表します

届出者の住所 埼玉 都・県 越谷市 区・町・村
年代 (○で囲んで下さい) 10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上
性別 (○で囲んで下さい) 男性・女性

公述人1
中綾-2

意見の概要

中川・綾瀬川沿いには、貴重な自然が残っていますので、流域全体の中で、そうした場所を残してください。中川に関しては、越谷市から草加市にかけての河畔林は、かつての水郷の景観として未来に残したいですし、特に新方川と中川の合流地点である中島には、県のレッドデータブックでも、絶滅危惧Ⅱ類とされている「サギ類のコロニー」があります。この度の河川整備計画でも、こうした自然を壊さないようにお願いします。

川は水の中の生きものだけでなく、その地域に生息する野鳥や昆虫の餌場としての機能があり、生態系のつながりにおいても重要です。工事該当場所周囲の自然調査と、調査の結果を反映しての工事をお願いいたします。

全国的に「多自然型川づくり」から、「多自然川づくり」へという声が上がっている今、こうした視点の取り組みが、河川整備計画の中に取り入れられることを希望しますので、よろしくお願いします。

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。

以下の部分について公表します

届出者の住所 東京 都・県 江戸川 市・区・町・村
年代 (○で囲んで下さい) 10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上
性別 (○で囲んで下さい) 男性・女性

公述人2
中綾-3

意見の概要

江戸川区松島に居住し、昭和22年の大水に遭遇した。水位は大人の頭をも越すほどで、家族は屋根に逃れ、中学生だった私と兄は母の実家へ疎開した。その後、そはを流れる中川は、伊勢湾台風を境として河口から上平井水門まで所瀬堤が築かれ安心していた。しかし、昨今の地球温暖化等によると思われる不自然災害の頻発は、過去の災害を基準にした水防計画では、もはや不十分であることを証明した。ことに上平井水門上流の両岸堤は脆弱で、いつニューオーリンズのような悲惨な大災害が襲ってくるかも知れない、という不安が付きまとっている。

中川は高砂橋上流が国で、下流域は都の管理河川と言う。両岸域の葦飾、江戸川区民百五にとって管理区分などどうでもよく、上流から河口まで責任を持って安全を担保してくれることを切望するのみである。零メートル以下の地域を確実に安全にするため、従来にはない高規格な堤防の構築を要望する。

※ 楷書横書きで400字以内にまとめて下さい。